



プロフィール

1978年6月1日 多度津町奥白方に生まれる
白方小学校、多度津中学校、多度津工業高校建築科卒
建築の道に進むのかと思いきや、
いつのまにか、さぬき福祉専門学校を卒業し



介護の道に。

特別養護老人ホーム紅山荘、医療法人社団有隣会「溝渕クリニック」
ケアマネジメントオフィス晴々 で21年間介護に従事

天職と思えるぐらい介護の仕事が好きだ！

現在

土器町西に住んでいます。

城東幼稚園の南側です。

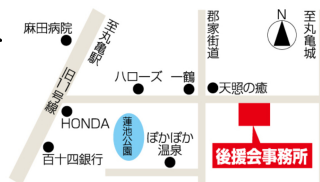


事務所開きのご案内

後援会事務所開設します。

日時 2021年3月14日(日) 13時30分
場所 丸亀市山北町697-1
TEL 0877-85-8782
fax 0877-85-8786

お気軽にお立ち寄りください。



チーム「笑顔命」 ボランティアスタッフ大募集

一馬の力を引き出すために、お力をお貸しください。

- ☐ ポスターの掲出
- ☐ 座談会・茶話会(カフェ)の開催
- ☐ チラシ配り
- ☐ 事務作業、宛名書き、データ入力
地図入れ
- ☐ マイク
- ☐ 湯茶接待 などなど

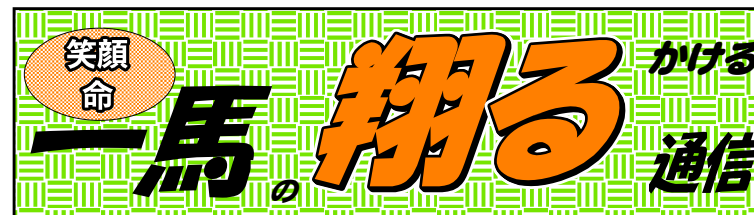
連絡は090-2822-3231

✉ watanabe@w-kazuma.comまで
お願いします。



米田県議会議員と

聞く力を持っている一馬さん、
今度は議員が天職になるんじゃない
ですか！



渡辺一馬、障がい者施策を語る

「みなさん、障がいのある方との共生社会、一体どんな社会でしょうか？」

私は介護施設、障がい者施設の現場で働いてきて
つくづく思います、

『自立支援』と言いますが、

本当にその人の強みや能力を理解してるだろうか、
その人の出来ることを奪ってないだろうか、と。

また、ある保護者の方からこういう話をいただき
ました。

『渡辺さん、丸亀市、障がい者に対するサービスが不
足してるんじゃないか、専門的なアドバイスを受けたい
んだけど、どこでアドバイスを受けたらええん?』と。

このギャップはどこから来るのでしょうか？

障がい者施策が当事者の意見を聞くことなく決まっ
ている現実から来ています。

そこに横たわるのは、障がい者を“可哀想な存在”だとか、“保護しなければならない
存在”という発想。

発想を変えませんか、『みんなちがってみんな一緒。ハンディキャップも個性』に。

障がい者運動のスローガンに“私たちが抜きに私たちのことを決めないで”という言葉が
あります。

私は、まず、障がい者やそのご家族の要望や声を聞く、そのために、市の審議会のな
かに障がい者枠を設け、障がい者の声を聞く仕組みを作るために動きます。

障がいに対する共通理解は、日常的なふれあい、実践を通してでないと、進んでいき
ません。お互いを理解し合う本当の意味での共生社会の実現、心の中にある壁を取っ払っ
ていくには**時間と経験が必要**です。心のバリアフリー化は並大抵のことではできません。

私、渡辺一馬は、当事者の声に耳を傾け、試行錯誤しながら、一つひとつ、ともに
同じ空間の中で生活するという実践を通じて、障がいのある方もそうでない方も自分らし
く生活できる、そういう丸亀市にしていけるために汗をかきます。」



みなさん 介護の不安はありませんか？

介護職場で働いてきた渡辺一馬さんに介護現場の課題をうかがいました。



Q 介護現場をどう見えていますか

私は、障がい者施設や介護施設、ケアマネジャー、介護福祉士として介護現場で20年間働いてきました。

介護保険がスタートし今年で21年が経ちます。

最初に比べて何が変わったかという点、介護の人手不足です。

介護の現場は、きつい、給料が安い、結婚できないの3Kと言われ、特に若い人のなり手がいません。

現在、訪問介護事業所の有効求人倍率は17倍、介護の人材不足は深刻です。

このままいくと介護サービスを受けたくても受けられない **介護難民**が多く出ます。

このコロナ禍でいつクラスターが起こるかわからない、**自分が発生源になるかわからない恐怖**と闘いながら、介護現場のみなさんは日々仕事されています。

Q どう改善していけばいいでしょうか

イメージがすごく悪いです。

こんなイメージの悪い職場にしたのは、一体誰のせいでしょうか。間違いなく政治の責任です。

私は介護職を**希望のある職**にしたいんです。介護職ほど人間的な仕事はないと誇りを持っています。

そのためには、まず処遇の改善、ペーパーワークの削減、そして介護職の意見が取り入れられる仕組みをつくる、この3つが大事なんじゃないかと思っています。

私は、介護職が希望のある職になるように全力で取り組んでいきます。

Q 他にどんな問題意識をもっておられますか

もう1つ改善したいと考えている課題は、家庭の介護者の負担軽減です。

ケアマネジャーをしているときに、お孫さんでおばあちゃんを最後まで在宅で看取られた方と出会いました。

その方は、お婆ちゃんを在宅で看取った後、私にこう言いました。

「渡辺さん、僕は祖母の介護と引き換えに、学業、友達、仕事、そして時間を失ったんだ！本当は、自分のことを理解して欲しかった。『誰か助けて！』って叫びたかった。周りからは『孫におばあちゃん最後まで看取られて幸せだったね』そう言ってくれたけど、僕が本当に欲しかったのは、祖母と僕、両方の幸せな生活だった」

そう私に語ってくれました。

私も祖父を在宅で看取りました。

私は家族、親戚、主治医の先生、介護事業所のスタッフ、みんなの協力で祖父を在宅で看取ることができました。

私の家族は恵まれていました。

でもこのお孫さんのように、自分の人生を犠牲にしながら、時間を犠牲にしながら、終わりの見えない介護を続けている家庭の介護者の方が丸亀市にたくさんいます。

私はその方たちの支えになるシステムを作りたいんです。

それには、**地域で支え合う仕組みが必要です**。地域包括ケアシステムの中身を充実していかなければなりません。認知症になった時安心して相談し早期に対応できる「**認知症それがどうした**」と言える仕組み、認知症初期集中チーム、今も丸亀市にはあるんですが、もっとこれを充実させたいです。

年をとっても安心できる、心細くない丸亀市にする、文字通り住み慣れた地域で暮らせるように、**介護の杖を強く、太く**していきませんか！

**現場力を議会の場で
思う存分発揮してください。
大いに期待しています。
丸亀市長 梶正治**

